

日本放送協会 甲府放送局

●山梨県甲府市

贈呈理由

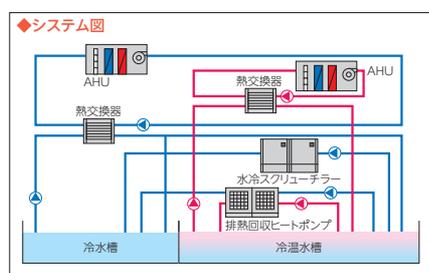
環境に配慮した地域の安全・安心情報を的確に伝える拠点を目指し、蓄熱システムを採用



日本放送協会 甲府放送会館

NHK甲府放送会館は、1965年に甲府市飯田にあったラジオ送信所の跡地に建設されたものである。しかしその後、放送技術は急速に進展し、地域放送の編成や番組演出も多様化した。特に最近では、建物や施設の老朽化や機能不足が目立っていたところに地上デジタルテレビ放送開始などでさらに番組の多様化が進行し、それまでの局舎では対応できなくなっていた。また一方で、地域の公共放送として"視聴者ふれあい"の重要度も増していた。そこでNHK甲府放送局では、人々が集まりやすい甲府駅前に会館を移転し、整備することにした。

2004年に新局舎の甲府駅北口への移転・建設が甲府市と基本合意され、07年12月には具体的な場所も決まって発表された。10年に着工され、12年5月21日に新局舎で業務開始、24日にグランドオープンした。



環境にやさしいエコ会館に、水蓄熱式空調システムを導入

移転にあたって新局舎の基本コンセプトを、「魅力ある地域にひらかれた放送会館」「災害に強い放送会館」「環境にやさしいエコ会館」とした。環境に配慮した水蓄熱式空調システム（高効率型・省スペースの水冷スクリーチャーおよび空気熱源ヒートポンプチラーの排熱回収型）を導入し、災害時には蓄熱槽を有効利用できる仕組みとした。

さらに、太陽光発電などの自然エネルギーの活用や、照明設備に電力消費の少ないシステムを導入するなどし、環境にやさしいエコ会館とした。

地域の安全・安心拠点

新局舎の鉄塔は84mと県内の建築構造物では2番目に高い建物となっており、300段ある階段の最上段にはお天気カメラが設置されている。また、スタジオなどの放送センター機能をワンフロア化することで、緊急報道などの必要となる情報発信をこれまで以上に的確に行えるようにした。

スピーディな放送体制で公共放送の



水冷スクリーチャー



排熱回収ヒートポンプ

使命を果たすとともに、1階スペースを視聴者に開かれたオープンな空間としてハートブラザ、汎用スタジオを整備、屋外の公開広場と一体的に運用して公開放送やイベントが実施できるようにしている。またマスコットキャラクターとして「しんげん君」「ぶど雄」「もも姫」を採用。さらに07年度NHK大河ドラマ「風林火山」の放送にともなうイメージキャラクターとして「かんすけ君」も設定されている。

天候に恵まれれば、最上段に設置されたお天気カメラから富士山や南アルプスの絶景を地域の視聴者に届けることもできる。地域の安全・安心情報を的確に伝える開かれた放送拠点として、地域と一体となった放送会館に生まれ変わった。

日本放送協会 甲府放送会館

所在地:山梨県甲府市丸の内1-1-20
建築設計:(株)三菱地所設計
建築施工:(株)フジタ、齋藤建設(株)
延床面積:5,500㎡
竣工年:2012年(新設)

●蓄熱設備概要

水蓄熱式空調システム 熱源機:水冷スクリーチャー 331kW×1台(三菱電機) 蓄熱槽:216㎡(冷水槽) / 排熱回収ヒートポンプ 361kW×1台(ダイキン工業) 蓄熱槽:350㎡(冷温水槽)